

## 第7回 理事会

日時：令和2年10月13日(火) 9:00~12:40

場所：本学会会議室(Web会議併用)

出席者：長田会長(議長)、伊藤副会長、清水副会長、  
末永常務理事、秋山、稲垣、太田、大沼、奥村、  
小俣、北田、竹村、徳永、富岡、西山、長谷川(淳)、  
林、船山、升元、三好、和田各理事  
野村、齋藤各監事  
欠席者：池見、大谷、佐々木、長谷川(信)各理事  
(理事25名中21名出席(過半数)により理事会は成立)

陪席者：熊谷(事務局)

議事内容：

### 1. 前回議事録の確認

- ・令和2年9月3日開催の第6回理事会の議事録案について承認した。

### 2. 審議事項

#### 1) 会員状況及び新入会員の承認

- ・事務局長から10月7日時点の会員状況について説明があり、9名の正会員の入会を承認した。
- ・10月7日時点では、正会員1,838名、学生会員36名、名誉会員60名となり、総数は1,934名であること、退会者について慰留困難であることを確認した。

#### 2) 委員・部会員の承認

- ・地下水研究部会、応用地形学研究部会、災害地質研究部会より各1名、将来構想検討特別委員会より15名、ダイバーシティ推進特別委員会より13名の合計31名の新任の委員について承認した。

#### 3) 学会Facebook運用開始について

- ・担当理事より説明がなされ、議論の結果、現状では学会Facebookの運用を速やかに開始することが困難であるため、運用方法を広報・情報委員会や総務委員会他で検討し、マニュアル等を整備した上で、改めて理事会に諮ることとした。
- ・Facebookの対象は学会員のみならず広く一般の方向けであることが確認された。また、至近に起こった災害の状況やメカニズムを説明するといった内容、学会の研究等に関連する海外の記事(英文)を解説する内容、応用地質学にまつわる様々な現象(災害、建設など)に対するQ&Aなどがコンテンツとして挙げられること、運用を開始する前に関係者のみで練習する場があると良いことなどのコメントがあった。

#### 4) 学会ネットワークストレージについて

- ・担当理事より説明がなされ、学会事務局にファイルサーバ(NAS)を設置し運用することについて承認した。
- ・外部サーバを利用した場合よりも安価に運用可能であること、学会の個人情報取扱規程の観点からも学

会で利用する情報は専用サーバに格納することが望ましいこと、研究発表会の予稿集は現在のホームページサーバで運用することが確認された。

#### 5) 将来構想検討特別委員会の事業計画について

- ・常務理事より説明がなされ、議論の結果、内容について承認した。ただし、以下のコメントに留意することとした。
- ・事業計画について、委員構成として研究部会の存在が見えにくくなっているため研究部会に兼務する委員が存在することが分かるようにした方が良いこと、できるだけ多くの支部会員に入って頂いた方が良く、支部、委員会等から多数参加頂くためには将来構想検討特別委員会運営規程第3条にある委員数である「原則として20名以内」に拘らず委員を募った方が良くことなどの意見が出された。

#### 6) ダイバーシティ推進特別委員会の事業計画について

- ・担当理事より説明がなされ、議論の結果、内容について承認した。
- ・本委員会では産官学のうち「学」に所属の委員が不在なこと、若手の女性は複数名参加しているが若手の男性の参加が無いことから、今後理事各位への推薦をお願いするとのことであった。

#### 7) 四国地方整備局と日本応用地質学会中国四国支部の災害調査連携協定について

- ・常務理事より説明がなされ、議論の結果、災害調査連携協定締結に向けた検討を開始することについて承認した。ただし、四国地方整備局との契約手続きに関しては検討時に確認することとした。
- ・現在地方整備局との契約を行っている支部として関西支部、九州支部があり、関西支部は支部長名で、九州支部は本部が契約していること、中部支部は現在協議を行っているとの報告があった。

#### 8) 防災学術連携体シンポジウムについて

- ・常務理事より説明および担当理事(欠席)からのコメントの紹介がなされた。
- ・議論の結果、2014年に学会より発表された「震災後の国民のための日本応用地質学会の3つの方針と提言」については内容を変更せず、分量に応じて適宜要約して提出することとし、この提言を紹介するとともに、2014年から現在まで様々な災害に対応してきた学会の取組を説明する文書を作成し、次回理事会に諮ることとした。
- ・2014年から現在まで、複数の災害調査団を設置して災害への対応を行ってきたことや特別委員会を立ち上げたことなど、一定程度進捗があったと考えられるため、これを記述してはどうかとのコメントがあった。

- 9) 日本学術会議会員任命拒否に関する声明について  
・ 常務理事より説明がなされ、学会として声明に賛同し、賛同学協会リストに加わることを決議した。

### 3. 確認事項

#### 1) 収支状況

- ・ 事務局長から令和2年度9月期の本部収支が説明された。
- ・ 現在のところ、特に問題は見当たらない。

#### 2) 日本応用地質学会表彰について

- ・ 清水副委員長、稲垣理事、北田理事、西山理事より、日本応用地質学会表彰の実施報告に関する説明があった。内容を取りまとめ、プレスリリースを行う予定である。

#### 3) ニュースリスト・ホームページに関する掲載依頼について

- ・ 担当理事より標記の報告があり、緊急の場合を除き、ホームページ・ニュースリストに掲載されるまで10日程度の猶予を考慮することが確認された。

#### 4) 東北地質調査業協会と東北支部の協定について

- ・ 担当理事より東北地質調査業協会と東北支部の間で、応用地質分野の技術の向上・発展を目的とした協定を結んだことが報告された。

### 4. 本部からの報告事項

#### 1) 他学協会からの依頼

- ・ 常務理事から、「第26回地下空間シンポジウム」の後援依頼を承認したことが報告された。
- ・ 常務理事から「第25回工学教育賞の推薦」に関し説明があり、候補者が居られれば推薦頂きたいとの依頼があった。なお、これまでの受賞者の内訳等を理事各位に報告することとした。

#### 2) 令和2年度日本応用地質学会研究発表会実施報告

- ・ 担当理事から研究発表会の実施報告および受賞者の報告があった。
- ・ 特別講演のビデオ画像提供は現在準備中であり、10月16日を目途に配信する予定であることが報告された。また、本実施報告に記載されるZoomでの研究発表の運用および課題は貴重な知見であることから、情報共有を図ってほしいとの意見があった。

### 5. 各委員会・支部・研究部会・小委員会からの報告事項

以下の委員会、支部、特別委員会から資料の提出また

は報告があった。

#### 1) 総務委員会、事業企画委員会

- ・ 担当理事より、直近開催の委員会の報告がなされた。

#### 2) 研究企画委員会

- ・ 担当理事より、直近開催の委員会の報告がなされ、2月に開催される先端技術ワークショップのテーマはAIとのことであった。

#### 3) 東北支部

- ・ 担当理事より今後の東北支部の行事予定(現地研修会)について説明があった。

#### 4) 中国四国支部

- ・ 担当理事より10月30日開催予定の支部研究発表会、特別講演会について説明があった。

#### 5) 応用地形学研究部会、環境地質研究部会

- ・ 担当理事より、直近開催の研究部会の議事内容の報告があった。

#### 6) 災害地質研究部会

- ・ 担当理事より、北海道胆振東部地震による地すべり災害に関する報告書、2019年台風19号等災害調査団報告書の進捗状況が報告された。前者については完成し、後者も間もなく印刷が完了するとのことで、両者とも今後販売促進を図っていくとのことであった。また、令和2年7月豪雨災害調査団の活動経過が報告された。

#### 7) 火山地域の応用地質学的諸問題に関する研究小委員会

- ・ 担当理事より、「火山地域の応用地質と岩の力学に関する国際ワークショップ」の進捗状況が報告された。本ワークショップで制作されるextended abstractについては、ワークショップ終了後、本学会ホームページに格納が可能かどうか検討することとなった。

### 6. その他

- ・ 審議事項において、「承認」と「不承認」の他に「保留」を設けることができないかという提起があり、次回の理事会以降導入することとなった。
- ・ 11月は拡大総務委員会が開催予定であることから、次回理事会は2020年11月下旬から12月上旬とし、後日調整することとなった。